

8.5 自然との触れ合い活動の場

8.5.1 調査事項

調査事項は、表 8.5-1 に示すとおりである。

表 8.5-1 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 ・自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・施設配置計画 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する計画としている。 ・伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討する。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採することとし、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行うこととする。 ・芝生広場は、移植・伐採後に、約 7,000m²の張芝を行うことで、まとまった芝生広場を引き続き確保し、緑地空間としての機能は変わらない計画としている。 ・園内はオープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の開けた樹木管理を行う計画としている。 ・計画地内に緑ある歩行者空間を整備するとともに、園路を活用した有明北地区の歩行者ネットワークを形成する計画としている。

8.5.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.5.3 調査手法

調査手法は、表 8.5-2 に示すとおりである。

表 8.5-2 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項	自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度	
調査時点	東京2020大会の開催後(2021年度)とした。	
調査期間	予測した事項	施設竣工後の 2021 年 11 月とした。
	予測条件の状況	施設竣工後の 2021 年 11 月とした。
	ミティゲーションの実施状況	施設竣工後の 2021 年 11 月とした。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とした。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	予測した事項	既存資料及び現地調査により、自然との触れ合い活動の状況の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)、竣工図及び緑化図の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)、竣工図及び緑化図の整理による方法とした。

8.5.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

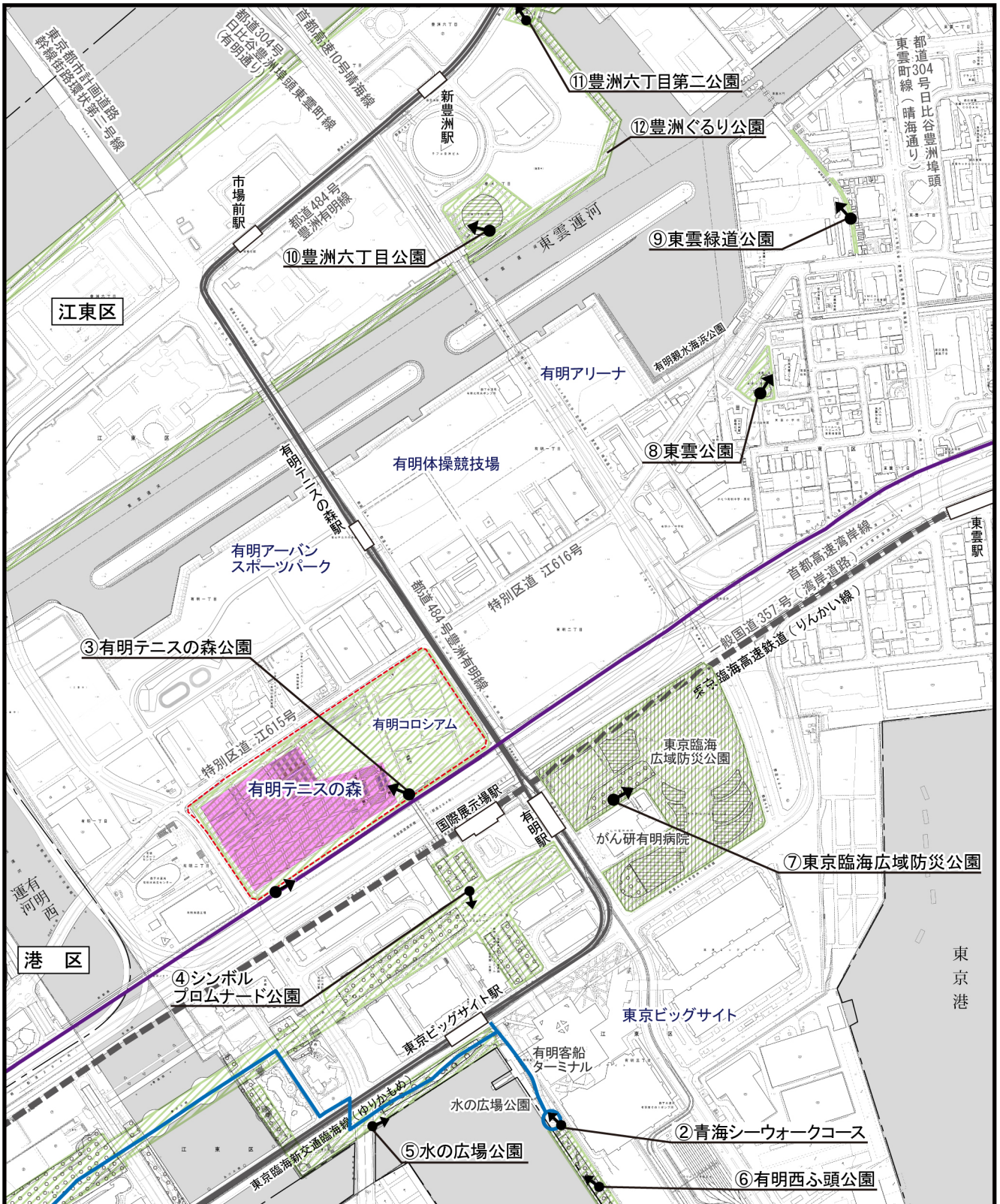
ア. 自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度

計画地及び周辺の自然との触れ合い活動の場の名称及び位置は、図 8.5-1 及び表 8.5-3 に、現況写真は、写真 8.5-1(1)及び(2)に示すとおりである。

事業の実施により計画地内の園路を形成する植栽樹の一部は改変されたが、既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存した。伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討した。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採し、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。芝生広場は、移植・伐採後に約 7,000 m²の張芝を行い、まとまった芝生広場を引き続き確保し、緑地空間としての機能は変わらないよう配慮した。また、園内はオープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の開けた樹木管理を行っており、計画地内に緑ある歩行者空間を整備するとともに、園路を活用した有明北地区の歩行者ネットワークを形成している。

計画地周辺の公園や遊歩道は、事業の実施による改変は生じず、自然との触れ合い活動の場は事業の実施前と同様に維持されている。

以上のことから、周辺の自然との触れ合い活動の場は維持されており、かつ、計画地内に新たな自然との触れ合い活動の場が創出されたことから、地域の自然との触れ合い活動の場は充実したものとする。



凡例

- 計画地
- 区界
- 東京臨海新交通臨海線 (ゆりかもめ)
- 東京臨海高速鉄道 (りんかい線)
- 写真撮影地点
- 公園等
- 休息
- 広場遊戯
- 施設遊戯
- 集会
- 武蔵野の路 (夢の島・お台場コース)
- 青海シーウォークコース



Scale 1:12,500



図 8.5-1
施設の状況 (有明テニスの森)

表 8.5-3 自然との触れ合い活動の場の名称及び位置

区分	番号	名称	位置	目的等
遊歩道、 道路	①	武蔵野の路（夢の島・お台場）コース	葛西臨海公園－若洲海浜公園－夢の島公園－辰巳の森海浜公園－東京テレポートタウン－お台場－船の科学館－城南島（約 16.7km）	武蔵野の路は、自然・歴史・文化にふれながら東京を周回する全長 270km の散策路であり、夢の島・お台場コースは東京湾の眺望と共に海浜公園、スポーツ公園、史跡公園が連続する散策コースである。
	②	青海シーウォークコース	東京ビッグサイト駅－有明西ふ頭公園－水の広場公園－夢の大橋－シンボルプロムナード公園－大観覧車・ヴィーナスフォート－ワイルドフラワー－自由の炎象－青海客船ターミナル－青海南ふ頭公園－テレコムセンター駅（約 4.2km）	巨大ショッピングモール・ヴィーナスフォートなど、有名スポットを巡りながら自然の景色が広がるプロムナードを散歩するコース。
公園、 児童遊園	③	有明テニスの森公園	江東区有明二丁目（約 163,000m ² ）	芝生と木立の緑豊かなテニスコート中心の公園。
	④	シンボルプロムナード公園	港区台場一丁目・二丁目 江東区青海一丁目・二丁目 江東区有明二丁目・三丁目 （約 264,000m ² ）	青海、有明、台場の各地区を結んで、臨海副都心内の様々な施設をつないでいる公園。防災からの避難場所など多くの機能を有している。
	⑤	水の広場公園	江東区有明三丁目 江東区青海一丁目・二丁目 （約 78,000m ² ）	行き交う船や水辺の眺望を楽しみながら、緑の中を散歩することができる公園。公園の運河沿いでは釣りが楽しめる。
	⑥	有明西ふ頭公園	江東区有明三丁目（約 10,000m ² ）	東京ビッグサイト等に隣接した公園で、運河を行き交う水上バスや観覧車を眺めながらのんびりできる公園。公園の運河沿いでは釣りが楽しめる。
	⑦	東京臨海広域防災公園	江東区有明三丁目（約 132,000m ² ）	首都直下地震等の大規模な災害発生時の防災拠点施設。
	⑧	東雲公園	江東区東雲 2-4-17（約 5,600m ² ）	東雲小学校、東雲第二保育園と隣接した街区公園。遊具やベンチが設置されている。
	⑨	東雲緑道公園	江東区東雲 1-7-4（約 1,500m ² ）	東雲 1 丁目に位置する、道路沿いの細長い街区公園。樹木の間には園路とベンチが設置されている。
	⑩	豊洲六丁目公園	江東区豊洲 6-2-35（約 16,200m ² ）	東雲運河に隣接する街区公園。芝生広場のほか、遊具やベンチが設置されている。
	⑪	豊洲六丁目第二公園	江東区豊洲 6-2-1（約 4,000m ² ）	東雲運河に隣接する街区公園。遊具やベンチが設置されている。
	⑫	豊洲ぐるり公園	江東区豊洲六丁目 1 番先、江東区豊洲五丁目 1 番先（約 152,000m ² ）	豊洲ふ頭をぐるりと散歩やランニング等を楽しむことができ、先端部ではレインボーブリッジ等を一望できる。



①武蔵野の路（夢の島・お台場）コース



②青海シーウォークコース



③有明テニスの森公園



④シンボルプロムナード公園



⑤水の広場公園



⑥有明西ふ頭公園



⑦東京臨海広域防災公園



⑧東雲公園

写真 8.5-1(1) 施設の状況(2021年11月時点)



⑨東雲緑道公園（調査時工事中）



⑩豊洲六丁目公園



⑪豊洲六丁目第二公園

写真 8.5-1(2) 施設の状況(2021年11月時点)

イ. 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度

事業の実施により、計画地周辺の自然との触れ合い活動の場が直接改変されることはなかった。

事業の実施により、園内はオープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の開けた樹木管理を行っており、計画地内に緑ある歩行者空間を整備したとともに、園路を活用した有明北地区の歩行者ネットワークを形成し、周辺の自然との触れ合い活動も含めた利用者の利便性が向上したものと考える。

2) 予測条件の状況

ア. 施設配置計画

施設配置計画は、「4. 有明テニスの森の計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3 事業の基本計画(1) 配置計画」(p.8 参照)に示したとおりである。

イ. 緑化計画

緑化計画は、「4. 有明テニスの森の計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3 事業の基本計画(7) 緑化計画」(p.16 参照)に示したとおりである。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.5-4 に示すとおりである。なお、自然との触れ合い活動の場に関する問合せはなかった。

表 8.5-4 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	・既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する計画としている。
実施状況	既存の大径木・樹林地に配慮し、樹木の約 2,000 本の保存に努めるほか、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木約 80 本を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。
ミティゲーション	・伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討する。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採することとし、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行うこととする。
実施状況	伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討した。検討に当たっては、樹木診断等をおこない、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採し、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。
ミティゲーション	・芝生広場は、移植・伐採後に、約7,000㎡の張芝を行うことで、まとまった芝生広場を引き続き確保し、緑地空間としての機能は変わらない計画としている。
実施状況	芝生広場は、移植・伐採後に、約 7,000 ㎡の張芝を行い、まとまった芝生広場を引き続き確保し、緑地空間としての機能は変わらないよう配慮する。
ミティゲーション	・園内はオープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の開けた樹木管理を行う計画としている。
実施状況	園内はオープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の開けた樹木管理を行う。
ミティゲーション	・計画地内に緑ある歩行者空間を整備するとともに、園路を活用した有明北地区の歩行者ネットワークを形成する計画としている。
実施状況	計画地内に緑ある歩行者空間を整備し、園路を活用した有明北地区の歩行者ネットワークを形成した。

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度

計画地は有明テニスの森公園内であり、園路を形成する植栽樹の一部は改変されたが、既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存した。伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討した。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採し、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。芝生広場は、移植・伐採後に約 7,000m²の張芝を行い、まとまった芝生広場を引き続き確保し、緑地空間としての機能は変わらないよう配慮した。また、園内はオープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の開けた樹木管理を行っている。これにより、計画地内に緑ある歩行者空間を整備し、園路を活用した有明北地区の歩行者ネットワークを形成しており、散策等の新たな自然との触れ合い活動の場として活用されると考える。

計画地周辺の公園や遊歩道は、事業の実施により改変されることは無く、自然との触れ合い活動の場は事業の実施前と同様に維持されている。

以上のことから、周辺の自然との触れ合い活動の場は維持され、かつ、計画地内に新たな自然との触れ合い活動の場が創出されたことから、地域の自然との触れ合い活動の場は充実しているものとする。

よって、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。

イ. 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度

事業の実施により、計画地周辺の自然との触れ合い活動の場が直接改変されることはなかった。

事業の実施により、園内はオープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の開けた樹木管理を行っており、計画地内に緑ある歩行者空間を整備し、園路を活用した有明北地区の歩行者ネットワークを形成されたことから、自然との触れ合い活動は促進されたものとする。

よって、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。